

しんらん同人

《 盂蘭盆会(お盆法要) 》

7月14日(日) 10:00~11:40

8月11日(日) 10:00~11:40

日時



場所

誓願寺

どなたでも
ご自由にお参りください

No.581

7・8
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

人間のはからい

誓願寺 初代住職 故岡本泰雄

「閑時、我れ山を見る。忙時、山我れを見る。」という詩があります。私の心が穏やかな時には、綺麗な山だと思いますが、忙しいと山など見ておりません。

ところが、忙しかろうとなかろうと山はいつも私を見ていてくれる。それと同じように仏さまのお慈悲は、時には有難いことだと思えますが、そうでない時には私を見捨てているのかというところでなく、忘れていた時でもお慈悲は私を照らしみそなわしている。その光の中にありながら有難かったり、そうは思わなかったり、浅ましい思いや恐ろしい気持ちを起こしたりします。

だが仏さまは忙しい時も常に憶念下さっている。私を思ってお下さるのは山そのものであり、お慈悲です。そういう世界を聞か

せていただく自分の力でど

うなったというものは何

もなくすべて

仏さまの願

力、お慈悲

の中で生かさ

れているだと安心させて

いただく以外に何もありません。

「念仏は義なきを義とする」私たちがど

うしようとするものがない、全てが仏さま

のはからいだということが念仏の本義だと

申されるのです。

その世界を知らせてもらおうと本当に気持

ちの上でも安らかにさせていただけです。

あれもこれもしなければならぬ、これ

が大変です。ところが思っても思わなくて

もよし。何ひとつ用事が無い。すべては仏

さまのおはからいのままでという世界を知

らせてもらおうと、求めずして自ら安らかな

世界が顕現されます。だから不可称不可

説、不可思議なのです。



岡本泰雄

なぜ人間のはからいに用事がないのか、念仏は不可称だからである。称とは称えるということのほか、比べるという意味があります。比べるものがないからです。不可説、言葉で言い表せない。不可思議、思っても思い尽くせない。考え尽くせないから義がないのです。人間のはからいにはもう用事がないのです。

私はこのように聞かせてもらっても、はからいばかりしています。今日は本当に良かった、分かったと喜んだかと思うと、片方では一つも分からなかったと心配します。だがそのなかから「ああそうだ、そんなものに用事がなかったのだ。仏さまのお慈悲だけだったなあ」と気づかせてもらうと、今までの自分のはからいに用事がないことを知らされます。

他力とは自力の無限否定だといった人があります。はからうなど言われてもはからわずにはおれぬ、だがその下から「ああこんなものはいらなかったのだなあ」と気づかせてもらうと、もうはからわなくなりません。

こんな事を心配していたが、何の役にも立たなかったと分かった時には、思ったり

心配したりする用事がなくなります。それを無限否定と言ったのでしょうか。

私たちは毎日のはからいの生活をしていただいていると、それがいつの間にか用事のないものであったと気づき、私は仏さまの大きなはからいの中に生かされている、山を見る余裕など無かったが山はいつも私を見ていて下さったのだと知らされます。

ご和讃に「十方微塵世界の念仏の衆生をみそなわし撰取して捨てざれば阿弥陀となすけたてまつる」とあります。

親鸞聖人は、仏さまが見て下さる、照らして下さる事を「みそなわし」と申されました。

念仏を申させていただく者は、仏さまから観ていただいている。いつも私を照らしてください。だから阿弥陀と名づけられるのだ。そのように味あわせていただきますと、気持ちがどんなにグラグラしていても、いつもみそなわして下さる。いつも観ていて、そしてお照らしの中にあるのだと心豊かになります。

仏さまにはからわれながらそういう世界を味あわせていただく。これは言葉では言

い表せられません。

念仏がどんなものなのか、他と比べたらどうか、あるいはどれほどのことが考えられるか、そういうことは全く役に立ちません。不可称、不可説、不可思議だからです。

合掌



副住職
法話

古賀明德

念珠について



浄土真宗においては「数珠」と呼ばずに「念珠」と呼びます。実は数珠も念珠も呼び方が違うだけで基本的な違いはありませんが、念珠と呼ぶ宗派は浄土真宗だけなのです。

本来、数珠・念珠は称えたお念仏の数を数えるために用いられるようになったのが起源です。

お念仏、他の宗派ではお題目と呼ばれるところもあります。「南無阿弥陀仏」や「南無妙法蓮華経」がそれにあたります。そのお念仏を一度称えるたびに一つずつ繰り返していく習慣がありました。お念仏を沢山称えてその功德をいただくと考えられていたからです。

親鸞聖人の師匠でもある法然上人(浄土宗の開祖)は一日に六万回お念仏をされたといわれています。ただひたすらに仏さまを敬う心でお念仏を称えなさいとおっしゃっています。浄土宗では数珠と呼ばれています。

ではなぜ浄土真宗ではお念珠と言うのでしょうか。

それは、浄土真宗では念仏の数を数える必要がないからです。

「仏説無量寿経」に説かれる阿弥陀様のご本願・第十八願に、悩み、苦しみ、悲しみを抱えることのない、仏さまとして生きてゆくことが出来る「極楽浄土」に仏さまとして生まれたいと願い、わずか十回でも念仏した者が、もし「極楽浄土」に生まれることが出来ないなら、私は悟りを開かず仏と成りませんと誓われました。

「乃至十念」わずか十回でも。親鸞聖人はこの「乃至」という言葉を、一回でも何回でも数を問わないお言葉だとお示しくされました。たとえ何回であっても良いということです。

親鸞聖人は、あなたを必ず救ってみせる、仏としてみせると働いて下さる阿弥陀様のお慈悲は、お念仏を、決められた回数称えないと救わないなどという限定したものではないとお示しくされたのです。

阿弥陀様のお慈悲は念仏の回数を問題としない。それだけ大きなものなのだとお示しくされたのです。だからお念仏の数にこだわることなく、必ず仏にすると働いて下さる阿弥陀様のお慈悲を喜ばせていただく思いが大切なのです、ということで「念」「念珠」と呼ばせていただいています。

念珠を忘れてお参りをしても、阿弥陀様の救いの心は変わりませんが、親鸞聖人は念珠を付けずにお参りをしても良いんですよとは仰せられていません。阿弥陀様に対して敬いの心があれば、口にも、お参りする身にもその姿が見えてくるものだと思われていらっしゃいます。

どうかお参りの時は念珠をお忘れなく。やむおえない時は、お焼香台の横に準備しております、お使い下さい。

合掌



ご法座等
のご案内

どなたでもご自由に
ご参加いただけます。
参加費は無料です。



7月

7・14 (日)

■午前十時〜

盃蘭盆会

【古賀明徳（誓願寺副住職）】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

7・21 (日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

7・28 (日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【不死川昌史師（大阪府）】

8月

8・11 (日)

■午前十時〜

盃蘭盆会

【宮本廣宣師（神奈川県）】

8・18 (日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

8・25 (日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【西村一樹師（兵庫県）】

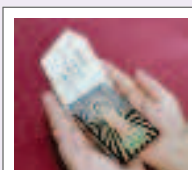
【過去の記念品】



〔2021年〕



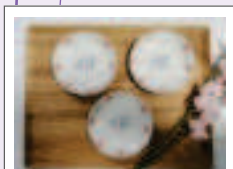
〔2018年〕



〔2022年〕



〔2019年〕



〔2023年〕



〔2024年〕



〔2020年〕

編集
後記



・本当に早いもので、令和六年も半年過ぎました。皆様にとりましてどの様な半年でしたか。反省をしながら、今後の日々を送ってまいります。

・梅雨明けを前に、専門家をお願いして全てのエアコンを十数年振りにクリーニング致しました。吹き出す風が新鮮に感じられます。

・来年の来寺記念品を考える時期。アイデアがございましたらお知らせください。